

女の年取り「雪中田植え」 ～豊作を願う伝統行事の復活～

大崎市鳴子温泉鬼首地区内の最北の集落では、かつて「女の年取り」とも呼ばれる「雪中田植え」という豊作を願う伝統行事が、2月の小正月の前日に、各家庭で盛んに行なわれていた。



その伝統行事も過疎化や高齢化により50年ほど前に絶えてしまったが、鬼首地区の四つの集落の軍沢(いくさざわ)、岩入(がにゅう)、尾ヶ沢(おがさわ)、寒湯(ぬるゆ)の住民が、集落内外の人々との交流と地域起こしを目的に、宮城大学の協力を得て7年ほど前に復活させた。

行事の内容は、若い女性が当時の野良着に蓑と傘を付け、稲わらに大豆を付けたものを雪が積もった田んぼに植え付ける「雪中田植え」を行うほか、地元の神社詣やかんじき歩き体験、枝木に餅を飾る粟稲(あわぼ)作り体験も行われる。豊作祈願の直会(なおらい)では、餅つきやお煮つけなどの地元ならではの料理を囲む。

集落には若者がいないため、宮城大学の女子学生や他地域の人も参加し、地元住民と和やかに楽しみながら伝統行事が行なわれる。

今年も2月下旬の休日に開催予定。参加または見学については、軍沢以北親睦会会長の高橋一幸氏(☎090-4888-3372)まで。

